

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成27年11月13日

【四半期会計期間】 第65期第2四半期(自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日)

【会社名】 中央ビルト工業株式会社

【英訳名】 CHUO BUILD INDUSTRY CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役会長兼CEO 西本 安秀

【本店の所在の場所】 東京都中央区日本橋富沢町11番12号

【電話番号】 03(3661)9631(代表)

【事務連絡者氏名】 管理本部長 石井 裕

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区日本橋富沢町11番12号

【電話番号】 03(3661)9631(代表)

【事務連絡者氏名】 管理本部長 石井 裕

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所

(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

中央ビルト工業株式会社 関西支店

(大阪府大阪市中央区高麗橋1丁目5番9号)

中央ビルト工業株式会社 中部支店

(愛知県名古屋市中区新栄2丁目1番9号)

中央ビルト工業株式会社 九州支店

(福岡県糟屋郡須恵町大字上須恵1515番地5)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第64期 第2四半期累計期間	第65期 第2四半期累計期間	第64期
会計期間		自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日	自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日	自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日
売上高	(千円)	3,865,653	4,296,664	8,327,812
経常利益	(千円)	247,596	233,218	617,221
四半期(当期)純利益	(千円)	140,155	129,627	364,026
持分法を適用した 場合の投資利益	(千円)	-	-	-
資本金	(千円)	275,500	275,500	275,500
発行済株式総数	(千株)	20,687	20,687	20,687
純資産額	(千円)	2,948,612	3,239,595	3,168,229
総資産額	(千円)	9,056,244	9,948,068	9,903,817
1株当たり四半期(当期)純利益金額	(円)	6.85	6.33	17.79
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	-	-	-
1株当たり配当額	(円)	-	-	2.50
自己資本比率	(%)	32.6	32.6	32.0
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	38,331	89,464	415,157
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	225,470	348,569	852,471
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	158,830	455,293	388,530
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	717,499	714,283	697,024

回次		第64期 第2四半期会計期間	第65期 第2四半期会計期間
会計期間		自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日	自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	4.95	4.91

- (注) 1. 売上高には、消費税等は含まれていない。
 2. 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社がないため記載していない。
 3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していない。
 4. 当社は四半期連結財務諸表を作成していないので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載していない。

2 【事業の内容】

当第2四半期累計期間における、事業の内容に重要な変更はない。また、関係会社の異動はない。

なお、当社は、第1四半期会計期間より、報告セグメントの名称を「開発営業」から「金属加工事業」へ変更している。当該変更については、名称の変更のみであり、セグメント区分の変更はない。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、本四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はない。

なお、重要事象等は存在していない。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はない。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものである。

(1) 業績の状況

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、政府主導による経済政策や金融政策の効果を背景に、企業収益や雇用・所得情勢の改善など景気は緩やかな回復基調が続いたものの、海外景気の下振れなどの先行き不安も残っている。

当社の主な関連業界である建設及び住宅業界においては、首都圏を中心とした再開発工事の増加や復旧・復興需要の下支えにより建設投資は堅調に推移した。しかし、一方で労務費・資材費の高止まり、着工遅延、工事の進捗遅れなどの状況も見られた。

このような状況の中、当社は仮設関連の旺盛な需要に応えるべく、保有機材の拡充や生産体制の強化に努めた結果、当第2四半期累計期間の業績は、売上高42億9千6百万円（前年同四半期比11.1%増）と増収となった。一方、損益面においては、貸与資産の減価償却費の増加等により営業利益2億4千2百万円（前年同四半期比7.3%減）、経常利益2億3千3百万円（前年同四半期比5.8%減）、四半期純利益1億2千9百万円（前年同四半期比7.5%減）と減益となった。

セグメントの状況は次のとおりである。

なお、第1四半期会計期間より、報告セグメントの名称を「開発営業」から「金属加工事業」へ変更している。当該変更については、名称変更のみであり、セグメント区分の変更はない。

仮設機材販売

社会インフラ整備等による軽仮設機材の品薄感から、仮設機材リース業者の安全機材への購買意欲は堅調だった。安全機材を中心とした製品販売に加え、仕入商品販売の増加により、売上高は15億3千9百万円（前年同四半期比8.5%増）と増収となった。セグメント利益は9千4百万円（前年同四半期比6.2%増）と増益となった。

仮設機材賃貸

首都圏を中心とした維持修繕工事、再開発工事等の増加により軽仮設機材の稼働率は高水準を維持した。

売上高は13億6千4百万円（前年同四半期比0.5%増）と増収となった。セグメント利益は貸与資産の減価償却費の増加等により1億5千万円（前年同四半期比23.0%減）と減益となった。

金属加工事業

くさび緊結式足場のOEM製造や集合住宅鉄骨加工の増加により、売上高は13億9千2百万円（前年同四半期比27.8%増）と増収となった。セグメント利益は0百万円（前年同四半期はセグメント損失1千9百万円）となった。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物は、前事業年度末に比べ1千7百万円増加の7億1千4百万円となった。活動別のキャッシュ・フローの状況は以下のとおりである。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

主な増加要因として、税引前四半期純利益1億9千8百万円、減価償却費の計上2億6千7百万円、売上債権の減少1億8千5百万円が挙げられる。

主な減少要因として、たな卸資産の増加1億9千4百万円、仕入債務の減少3億6千8百万円、法人税等の支払額1億4千8百万円が挙げられる。

以上の要因により営業活動によるキャッシュフローは、8千9百万円の支出(前年同四半期は3千8百万円の収入)となった。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

主な減少要因として、貸与資産(賃貸機材)の新規投資、その他有形固定資産の取得による支出3億4千1百万円が挙げられる。

以上の要因により投資活動によるキャッシュフローは、3億4千8百万円の支出(前年同四半期は2億2千5百万円の支出)となった。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

短期借入れは、当座貸越利用の増加により前事業年度末と比べて、7億円の増加となった。長期借入れは約定返済により、前事業年度末と比べて1億7千3百万円の減少となった。

また、リース債務の返済による支出と配当金の支払による支出があった。

以上の要因により財務活動によるキャッシュフローは、4億5千5百万円の収入(前年同四半期は1億5千8百万円の収入)となった。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はない。

(4) 研究開発活動

当第2四半期累計期間における当社の研究開発活動に係る費用の総額は3千8百万円である。なお、当第2四半期累計期間において、当社の研究開発活動の状況に重要な変更はない。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	60,000,000
計	60,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成27年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成27年11月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	20,687,400	20,687,400	東京証券取引所 (市場第2部)	単元株式数は1,000株である。
計	20,687,400	20,687,400	-	-

(注) 発行済株式のうち、6,637,500株は、現物出資(借入金531百万円の株式化)により発行されたものである。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項なし。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項なし。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項なし。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成27年7月1日～ 平成27年9月30日	-	20,687,400	-	275,500	-	526,043

(6) 【大株主の状況】

平成27年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合 (%)
アルインコ株式会社	大阪府高槻市三島江 1 - 1 - 1	6,819	32.96
日鐵住金建材株式会社	東京都江東区木場 2 - 1 7 - 1 2	965	4.66
株式会社 S B I 証券	東京都港区六本木 1 - 6 - 1	517	2.49
加藤 邦夫	福井県鯖江市	350	1.69
三井住友信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内 1 - 4 - 1	341	1.64
日本証券金融株式会社	東京都中央区日本橋茅場町 1 - 2 - 1 0	339	1.63
丸藤シートパイル株式会社	東京都中央区日本橋本町 1 - 6 - 5	250	1.20
中央ビルト工業株式会社	東京都中央区日本橋富沢町 1 1 - 1 2	242	1.17
村山 信也	東京都西多摩郡瑞穂町	221	1.06
松井証券株式会社	東京都千代田区麹町 1 - 4	173	0.83
計	-	10,218	49.39

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成27年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 242,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 20,240,000	20,240	-
単元未満株式	普通株式 205,400	-	-
発行済株式総数	20,687,400	-	-
総株主の議決権	-	20,240	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が、1,000株(議決権の数1個)含まれている。

【自己株式等】

平成27年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
中央ビルト工業株式会社	東京都中央区日本橋 富沢町11番12号	242,000	-	242,000	1.2
計		242,000	-	242,000	1.2

2 【役員の状況】

該当事項なし。

第4 【経理の状況】

1. 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第63号)に基づいて作成している。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間(平成27年7月1日から平成27年9月30日まで)及び第2四半期累計期間(平成27年4月1日から平成27年9月30日まで)に係る四半期財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けている。

3. 四半期連結財務諸表について

当社は子会社がないため、四半期連結財務諸表は作成していない。

1 【四半期財務諸表】

(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成27年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	697,024	714,283
受取手形	825,795	727,824
売掛金	1,481,780	1,393,819
製品	552,793	912,396
仕掛品	421,744	407,918
原材料及び貯蔵品	833,285	682,041
繰延税金資産	25,716	19,526
未収入金	137,142	106,007
その他	10,431	21,119
貸倒引当金	3,228	3,129
流動資産合計	4,982,485	4,981,808
固定資産		
有形固定資産		
建物	1,935,155	1,936,054
減価償却累計額	1,632,465	1,646,673
建物(純額)	302,690	289,380
構築物	611,758	611,758
減価償却累計額	579,838	582,667
構築物(純額)	31,920	29,091
機械及び装置	1,938,040	1,973,287
減価償却累計額	1,786,849	1,800,765
機械及び装置(純額)	151,191	172,521
貸与資産	9,460,698	9,562,884
減価償却累計額	8,523,101	8,575,396
貸与資産(純額)	937,597	987,488
車両運搬具	72,163	68,033
減価償却累計額	71,966	67,934
車両運搬具(純額)	197	98
工具、器具及び備品	256,107	264,727
減価償却累計額	243,638	249,934
工具、器具及び備品(純額)	12,468	14,792
土地	3,177,361	3,177,361
リース資産	238,441	256,163
減価償却累計額	133,561	151,624
リース資産(純額)	104,880	104,538
有形固定資産合計	4,718,306	4,775,273
無形固定資産	9,637	8,677
投資その他の資産		
投資有価証券	49,233	38,288
繰延税金資産	33,797	36,210
その他	121,348	111,662
貸倒引当金	10,992	3,852
投資その他の資産合計	193,387	182,309
固定資産合計	4,921,332	4,966,259
資産合計	9,903,817	9,948,068

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成27年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	1,397,058	1,201,118
買掛金	879,625	649,780
短期借入金	1,500,000	2,200,000
1年内返済予定の長期借入金	346,228	346,228
未払法人税等	154,099	70,654
賞与引当金	31,932	27,084
役員賞与引当金	29,310	14,655
その他	296,861	266,075
流動負債合計	4,635,115	4,775,595
固定負債		
長期借入金	1,799,344	1,626,230
退職給付引当金	113,453	114,567
長期未払金	98,464	98,464
その他	89,210	93,614
固定負債合計	2,100,472	1,932,876
負債合計	6,735,588	6,708,472
純資産の部		
株主資本		
資本金	275,500	275,500
資本剰余金	526,043	526,043
利益剰余金	2,372,397	2,450,887
自己株式	23,055	24,638
株主資本合計	3,150,885	3,227,792
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	17,343	11,802
評価・換算差額等合計	17,343	11,802
純資産合計	3,168,229	3,239,595
負債純資産合計	9,903,817	9,948,068

(2)【四半期損益計算書】
【第2四半期累計期間】

	(単位：千円)	
	前第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
売上高	3,865,653	4,296,664
売上原価	3,042,448	3,539,784
売上総利益	823,204	756,880
販売費及び一般管理費	1 561,764	1 514,466
営業利益	261,440	242,414
営業外収益		
受取利息	218	196
受取配当金	1,056	1,056
受取地代家賃	2,329	2,329
雑収入	682	1,475
営業外収益合計	4,285	5,056
営業外費用		
支払利息	14,489	11,918
雑支出	3,639	2,333
営業外費用合計	18,128	14,252
経常利益	247,596	233,218
特別損失		
臨時損失	-	2 35,000
特別損失合計	-	35,000
税引前四半期純利益	247,596	198,218
法人税、住民税及び事業税	111,361	62,170
法人税等調整額	3,920	6,420
法人税等合計	107,441	68,590
四半期純利益	140,155	129,627

(3)【四半期キャッシュ・フロー計算書】

	(単位：千円)	
	前第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	247,596	198,218
減価償却費	197,024	267,923
貸倒引当金の増減額（は減少）	178	7,239
賞与引当金の増減額（は減少）	1,039	4,847
役員賞与引当金の増減額（は減少）	10,700	14,655
退職給付引当金の増減額（は減少）	10,097	1,114
役員退職慰労引当金の増減額（は減少）	67,662	-
支払利息	14,489	11,918
受取利息及び受取配当金	1,274	1,252
売上債権の増減額（は増加）	213,475	185,932
たな卸資産の増減額（は増加）	440,138	194,534
仕入債務の増減額（は減少）	318,168	368,742
その他	132,453	4,319
小計	187,798	69,516
利息及び配当金の受取額	1,274	1,252
利息の支払額	14,588	11,854
法人税等の支払額	137,009	148,517
法人税等の還付額	856	138
営業活動によるキャッシュ・フロー	38,331	89,464
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	221,178	341,541
その他	4,291	7,027
投資活動によるキャッシュ・フロー	225,470	348,569
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	400,000	700,000
長期借入金の返済による支出	170,400	173,114
リース債務の返済による支出	18,034	18,872
配当金の支払額	51,174	51,138
その他	1,560	1,582
財務活動によるキャッシュ・フロー	158,830	455,293
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	28,308	17,259
現金及び現金同等物の期首残高	745,808	697,024
現金及び現金同等物の四半期末残高	717,499	714,283

【注記事項】

(四半期貸借対照表関係)

手形債権流動化による受取手形の譲渡高及び支払留保額

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成27年9月30日)
受取手形の譲渡高	374,569千円	483,047千円
支払留保額	106,725 "	101,413 "

(注) 支払留保額は、手形債権流動化による受取手形の譲渡高のうち遡及義務として支払留保されているものである。

(四半期損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりである。

	前第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
従業員給料及び手当(従業員賞与含む)	180,685千円	180,950千円
賞与引当金繰入額	20,647 "	18,578 "
退職給付引当金繰入額	24,413 "	19,829 "
役員賞与引当金繰入額	11,500 "	14,655 "
役員退職慰労引当金繰入額	30,802 "	- "

2 名古屋工場の地盤沈下対策工事費用である。

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりである。

	前第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
現金及び預金	717,499千円	714,283千円
現金及び現金同等物	717,499 "	714,283 "

(株主資本等関係)

前第2四半期累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月20日 定時株主総会	普通株式	51,174	2.50	平成26年3月31日	平成26年6月23日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項なし。

当第2四半期累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月24日 定時株主総会	普通株式	51,138	2.50	平成27年3月31日	平成27年6月25日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項なし。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計
	仮設機材販売	仮設機材賃貸	金属加工事業	
売上高				
外部顧客への売上高	1,418,731	1,356,995	1,089,926	3,865,653
計	1,418,731	1,356,995	1,089,926	3,865,653
セグメント利益又は損失()	88,746	195,380	19,948	264,178

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	264,178
全社費用 (注)	2,738
四半期損益計算書の営業利益	261,440

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費である。

当第2四半期累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計
	仮設機材販売	仮設機材賃貸	金属加工事業	
売上高				
外部顧客への売上高	1,539,794	1,364,103	1,392,766	4,296,664
計	1,539,794	1,364,103	1,392,766	4,296,664
セグメント利益	94,251	150,513	412	245,177

(注) 第1四半期会計期間より、報告セグメントの名称を「開発営業」から「金属加工事業」へ変更している。当該変更については、名称変更のみであり、セグメント区分の変更はない。

前第2四半期累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの名称で記載している。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	245,177
全社費用 (注)	2,762
四半期損益計算書の営業利益	242,414

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費である。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりである。

項目	前第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	6円85銭	6円33銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	140,155	129,627
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	140,155	129,627
普通株式の期中平均株式数(千株)	20,462	20,463

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していない。

2 【その他】

該当事項なし。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項なし。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年11月12日

中央ビルト工業株式会社
取締役会御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	加藤克彦
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	菊地徹

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている中央ビルト工業株式会社の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの第65期事業年度の第2四半期会計期間(平成27年7月1日から平成27年9月30日まで)及び第2四半期累計期間(平成27年4月1日から平成27年9月30日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、中央ビルト工業株式会社の平成27年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。